

2009年度開講科目

## 調査実習概要報告書

\*/\*

2010年4月16日

科目担当者氏名		科目担当者浦終生 (メールアドレス)
(ふりがな)	せき よしひろ 関 嘉寛	
連絡責任者氏名		行日取置機因石
(ふりがな)	みうら こうきちろう 三浦 耕吉郎	関西学院大学 社会学部
授業科目名	科目認定番号	受講者数
社会調査実習 I	KSGa-090704-0	20

## I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

中越地震被災地での参与観察では、学生たちは住民たちと復興委便の準備・実施・後片付けなどに参加し、フィールドノート作成した。また、防災教育をおこなっているNPOへのインタビュー調査では、文献資料から自分たちで質問項目を考え、インフォーマントとの連絡、調査実施、データの整理などをおこなっていた。以上のように、本実習では学生たちが率先して、調査の設計・準備、実施および整理に関わっていった。本実習を通じて、履修学生が社会調査についてさまざまなことを学べたと思う。

## II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：参与観察では、地震の被災者が復興活動において、何を必要としているか、復興とは何であるかが得ているかについて調査した。インタビュー調査では、日本におけるNPO・NGOの実態について、当事者たちの考えを調べた。
2. 調査の内容/概要：新潟県中越地震被災地における復興イベントへの参加や住民の地域活動に対する参与観察および防災教育をおこなっているNPO職員・スタッフへのインタビュー調査。
3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：中越地震被災地および防災教育を行っているNPO。その理由として、災害という突然の危機は、社会構造を明確にする契機となり、その体験車およびそれを学ぶ人を調査することはNPO・NGOの実態を知る上で重要であるから。
4. 主な調査項目：参与観察では、災害後の復興やまちづくり、人間関係の変容について。インタビュー調査では、NPO・NGOに参加するきっかけや課題について。

## III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：NPO・NGOの活動への参加および被災地でのイベントなどへの参加
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：参与観察は6月・9月・10月・11月。インタビュー調査は5月・7月・9月・11月
7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：参与観察では豊富なフィールドノートを収集できたが、インタビュー調査では、十分なインフォーマントを集めることが出来なかったが、必要な数は確保できた。

## IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：参与観察ではフィールドノートの分析。インタビュー調査では音声データの下記興しの分析を行った。
9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：参与観察ではボランティア活動が復興活動において、新しい支え合いの仕組みとなり、復興を推し進めていることが分かった。インタビュー調査では、NPO活動が特殊な活動というよりはむしろ気軽な動機で行われていることが分かった。しかし、それゆえに人材や活動資金の問題も抱えていることが分かった。
10. 報告書刊行の予定と概要：特に予定なし

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の\*印の箇所には数字を(\*/\*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通り)にして、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。